

華北農村調査の記録

—2016年8月河北省・山東省農村—

河野 正

I 調査概況

本報告は2016年8月に、中国河北省唐山市及び山東省済南市・章丘市の農村で行った聞き取り調査の記録である。筆者による河北省唐山市における調査は3度目であり、同市玉田県D村では2014年にも調査を行っている^[1]。河北省における調査では、昨年度に引き続き唐山学院薛長剛講師の協力を得た。

筆者が山東省で調査をするのは今回が初めてである。今回は山東大学歴史文化学院韓朝建講師の協力を得て、済南市を中心に3村で聞き取り調査を行った。そのうちの冷水溝は『中国農村慣行調査』の対象村であると同時に、1980年代には中生勝美によって調査が行われたことでも知られている^[2]。この他、今回調査をした村の中で特徴的なところとして、章丘市Z村がある。ここは村内に古建築が比較的残っているため、観光地として公開されており、入村には1人当たり40元の入場料がかかる。今回聞き取りを行った老人も、観光客相手に土産物売っている人物である。

本報告ではプライバシー保護のため、人名・地名はアルファベット表記としてある。地名は県・区までは実名を表記し、村・鎮名をアルファベットにしてある。例えば「十里店村」であれば「S村」、人名は例えば「毛沢東」なら「MZD」と表記する。但し、上述冷水溝は著名な村落であり、『中国農村慣行調査』や中生勝美による調査でも実名が示されているため、本報告でも冷水溝及びそれに関係する地名のみは記してある。

II 聞き取り内容

1 河北省唐山市古冶県 D 村

(1) ZZS

2016年8月2日 午後

インフォーマント年齢：81歳 子年

エゴについて

- ・エゴはもともと D 村から 5~6 里離れた Z 村出身。父親は炭鉱夫。22 歳の時にこの村の男性と結婚して、この村に来た。それで合作社に入った。

Z 村における土地改革について

- ・土地改革では地主のものを貧下中農に分配した。そのため農民たちは喜んだ。
- ・エゴの家は下中農だった。当時の家族は父母とエゴの 3 人。土地は 10~20 ムーほどあったが、土地改革による変動はなかった。当時エゴは 8~9 歳。
- ・父親は炭鉱夫だったため家庭内の労働力は母とエゴ。労働力が少なかったため、40 歳くらいの男性を 1 人雇っていた。この人は 10 日につき 1 日くらいのペースで働いていた。
- ・エゴの家は、このように人を雇っていたために貧農ではなく下中農になった。
- ・この時期、農業において他の人と助け合うことはなく、皆自分の土地で耕作していた。

Z 村における農業集団化

- ・母親は自分の土地を自分で経営したいと考え、合作社には入りたがらなかった。エゴは、合作社に入れば、友人たちとともに労働することができるので、入社したいと思った。
- ・しかし合作社に入った後、分配される食糧は個人経営の時に生産していた分より減った。
- ・合作社では豆腐作りや粉挽きなどの副業があった。エゴも豆を粉に挽く副業を行った。
- ・これらの副業は合作社になって始まった。
- ・村の副業として羊を飼っていた。家畜は個人のものではなく、生産隊の所有。

D 村の大躍進について

- ・大躍進の頃には村に肥溜めが増え、5 歩歩くと 1 つの肥溜めがあるほどだった。肥溜めの糞は外から買って来たものではなく村内のもの。人糞や豚糞。これは労働点数で公有

化した。大躍進の時には肥料にするためオンドルも壊した。当時は化学肥料もあった。

- ・大躍進の時には村に食堂があった。食堂で食べられる食糧は1人1日半斤、15日7斤半。これでも多い方だが、やはり足りなかった。食堂で食べられるものはトウモロコシの皮で作ったものなど。これはまずかったし、食堂は汚かった。野草なども食べた。

(2) ZYX

2016年8月2日 午後

1951年生まれ。(1) ZZSの結婚の時7歳だった。

エゴについて

- ・D村生まれ。8歳から5年間学校に通った。その後人民公社に参加し、農業をした。

農業集団化

- ・生産隊は大隊によって組織されたものであり、自発的に組織した訳ではない。家が近い者などで同じ組に分けた。合作社には村全員が入った。地主・富農も皆入った。既に地主・富農の土地は分配していたのだから、階級成分(以下「成分」)は関係なかった。
- ・入社は自発的なものではなく、政策によって必ず入らなければならなかった。
- ・退社した者もない。合作化によって発展すればするほど良くなったのだから。
- ・人民公社には15の生産大隊があった。1979年に人民公社が解体し土地を分けた。

村の作物・労働点数

- ・人民公社の頃、村では主に小麦・トウモロコシ・大豆・高粱・野菜などを植えていた。何を植えても労働点数は同じである。
- ・人によって技術や体力が異なるので、それによって労働点数は異なった。
- ・これに対し不公平に思う人はいなかった。何故なら、体力のない老人は技術があり、技術のない若者は体力があるので、結局のところ各人の点数はあまり変わらなかったため。
- ・男女で点数に差はあり、男の方が多かった。しかし差不多。不公平とは思わなかった。
- ・農業も副業も点数は同じ。これについても不公平とは思わなかった。当時は皆でともに労働し、特に不満もなく、良い時代だった。
- ・当時は集団労働をする良い時代だったが、現在は特に集団での行動はない。
- ・(集団労働が良かったというのに、現在集団でやる行動が何もないのは何故か、という質問に対し)今は皆自分の土地があり、自分の作物を植えたい。また若者も外で働いて

おり、村にはいない。そのため皆個人でやる。今は時代が違うのだ。

村の大姓

- 村にはZ姓・W姓が多い。C姓もいる。これらの姓は特に良い関係でも悪い関係でもない。
- 第8隊は全員Z姓だった。隊ごとに同姓が集まる場合が多かったが、それは近いところに住んでいたのと、関係が良かったためである。

2 河北省唐山市豊潤区Q村

(1) WHH

2016年8月3日 午後

インフォーマント年齢：75歳 午年

※エゴは2001年に本村へ移住してきたため、主に元々住んでいた村の状況について聞き取りをした。

エゴについて

- 本村ではなくW郷B村というところの生まれ。本村に娘が嫁いたので、自分も移住した。3人の娘は皆この村に嫁いだ。
- B村からQ村へ嫁いでくる人、多くはないが他にもいることはいる。B村には若い人はおらず、老人と子供しかいない。B村は山区であり、Q村の方が状況は良い。そのため特にB村の男性は結婚相手を探すのが難しい。
- 1962年から学校に通ったが、下放され、1年間飯店で働いた。その後供銷合作社で働いたが、文化大革命の時、1967年に下放され農業をした。その後はずっと農業をしていた。
- 最終的には8年間学校へ通った。中学2年まで。その後、生産隊で会計になった。

B村の農業について

- B村ではトウモロコシ、サツマイモ、粟、高粱、果樹（桃、柿）、煙草などを植える。
- 煙草は1年で収穫できるし、売ることができるので、植えている者は豊かだった。果樹は収穫に数年かかり、特に豊かということはない。
- 煙草は人民公社解体後に植え始めた。1950～1960年代にもあったが、少なかった。
- 合作社でも果樹や煙草の栽培は副業として行った。

- 合作社時期、管理が悪く、水源にも問題があったため果樹の収穫は少なかった。
- 人民公社解体後はポンプが普及し、水源の問題は解決された。また果樹が個人のものとなったので、管理も良くなった。
- 今は煙草が多いが果樹は少ない。トウモロコシも多い。若い労働力がいないので。

農業集団化について

- エゴは生産大隊と生産小隊の両方で会計をしたことがある。まず小隊で先に会計をやり、成績が良かったため大隊の会計になった。エゴ以外の会計も皆文化のある人であった。
- 小隊の規模は130人余り。大隊は363人（当時の村の人口に同じ）。
- 小隊1つ1つが大きかったため、村には2~3隊しかなかった。小隊がこのように大きかったのは、山地で土地が多くても生産性が低かったためではないだろうか。
- 果樹・煙草の他、生産隊では豚や牛、鶏などを飼う副業や豆を粉に挽く副業もあった。

村の徴兵について

- 人民公社の頃、赤脚医生（裸足の医者）もいた。彼は元兵士で、復員した後に医者になった。兵士だったのは1年ほどだが、いつのことかは覚えていない。エゴが20歳くらいの頃で、当時彼の年齢はエゴの倍くらいだった。
- 村内には彼の他、兵士になった人が数人いた。兵士になった理由は徴兵されたから。誰が選んで徴兵したのかは分からない。彼らは皆、村に戻った後は農業をしていた。
- エゴの兄も1963年に兵士になった。彼は北京の航天大学に合格したが、家が貧しいので軍人になった。また、人民公社の武装部長が彼を軍に行かせたいと思ったため。
- 武装部長は公社内の徴兵業務などを担当する。彼は村の人ではなく県城の人。
- 兄の方から武装部長を訪ねて行って、兵士になることを志願した。

会計の仕事について

- 労働点数は他の人と同じ。労働の量も他の人と同じ。それに加えて会計の仕事もあり、その分、他の人より多く働く必要がある。
- （それでは仕事ばかり多く、会計をする利点がないのではないかと、との質問に対して）会計の仕事がある間は農業労働をしなくて良かった。
- 会計の主な仕事は労働点数の計算。点数は労働力に基づいて付与する。「人情分」はない。
- 労働点数は男女で違う。それは男女で労働が異なるから。女性は重労働をしない。

- ・家畜の飼育も労働点数は同じ。しかし羊などは軽労働扱いで労働点数が少なかった。

(2) LJB

1945年生まれ

※(1)の聞き取りの途中で合流。LJBはQ村出身であるため、ここからは主にQ村について聞き取りを行った。またLJBは近年自発的に村史を執筆し、2015年に出版している。

エゴ及び村史について

- ・小学校に通い、1977年から唐山市の開灤鉱務局などで働く。1996年に退職して村へ戻る。
- ・Q村は明の永楽年間に山東省から移民してきた人によって作られた。移民の理由は上から移民を指示されたため。移民のうちH姓の人々が中心になった。
- ・村の土地改革は1949年。地主が3戸、富農が5戸いた。村全体の人口は当時800人。
- ・地主・富農は豆腐作りや香油作り、商店（糧行）などをやっていた。土地も多かった。

村の廟と廟会

- ・清の康熙年間、ZCJという人が5つの廟を建てた。三官廟、官陰廟、老爺廟、五道廟（2つある）。そのうち三官廟が一番大きかった。ZCJが廟を建てたのは、科挙に合格したら廟を建てると誓っていたから。これらの廟は文化大革命で壊してしまい、再建されていない。
- ・3里離れた村では北大寺という寺廟があり、毎年旧暦4月28日に大規模な廟会を開いていた。この村の人も皆その廟会に行っていた。
- ・Q村の人はその村の廟会に対して金を出す義務はない。金がある人が出す。金がない人も出すことは出すが、それは義務ではなく自発的なもの。出さなくても良い。
- ・廟会では劇の他、影絵などもやる。村の人が上演し、金持ちが彼らに金を出す。老百姓は金を出さずに好き勝手に見る。金を出さないからと言って面子がつぶれることはない。

3 河北省唐山市玉田県D村

(1) ZQZ

2016年8月4日 午後

インフォーマント年齢：67歳 寅年

エゴについて

- エゴは本村生まれの郷村医生。もともとは半農半医。その後、赤脚医生に専念し、農業をする時間がなくなった。46年間医者をやっている。
- 鎮の病院で7カ月研修を受けた。働きながら学ぶ。1972年末から1973年6月まで。
- その前には6年間学校に通った。高級小学校卒業。

村の医療について

- エゴは「村の医者」であり「生産隊の医者」ではない。しかし大隊が育成した医者である。
- 村には他にも赤脚医生がいた。1人は女性、1人は男性。彼らは1982年にやめた。理由は人民公社解体後、労働点数制ではなくなり、医者をするのは割りに合わなくなったため。

土地改革

- 土地改革の時に家にどれだけ土地があったかは分からない。その後もどれだけ土地があったかは分からない。土地改革の時は貧農だった。
- 本来は富農だが、兵士であるために上中農にされたという人がいた。CLYという人。彼は土地改革の直前、1947年から兵士になった。他の村では烈士だったためにもっと優遇されていた者もいた。

農業集団化時期

- 医者をするのも農業をするのも労働点数は同じ。人民公社には「合作医療」があった。
- 医者になる前、1965年には生産隊で会計になった。会計になったのは成分は関係ない。どんな成分でも、文化がないとできない仕事である。
- 富農のYZも会計をやっていた。彼は現在75~76歳。彼の他の会計は皆貧農だった。
- 富農が会計になったのは、他に文化がある人がおらず、また彼の人柄も良かったため。エゴとの関係も悪くなかった。

- 1967年には毛沢東思想文芸宣伝員としてラッパや二胡、笛の演奏などをした。1970年にはまた生産隊の会計になった。どちらも生産小隊。
- 会計になる前、3カ月間、農業中学の会計科に通った。「三帳両簿」を学んだ。現金帳、実物帳、財産帳、財産登記簿、実物登記簿のこと。会計になる人が必ず農業中学に行く訳ではない。

(2) YWH

2016年8月4日 午後

インフォーマント年齢：76歳 巳年

エゴについて

- 本村出身、玉田県農業局で働いていた。
- 4年間初級小学校に通い、その後高級小学校に通った。初級中学にも3年間通った。
- 昌黎県農校に3年間通い1966年に卒業。その後、文革のために仕事がなく、10年間家にいた。1977年から農業局へ行った。

村の歴史

- 村の「解放」は1947年。当時の村書記はCXG。村はL姓、W姓、C姓が多いが、その中でC姓は比較的少ない。
- CXGは1942年に入党した老党员。当時は地下党员。当時の地下党员にはC姓3人、B姓1人、L姓1人、L姓1人がいた。他にも老党员はいたが、1947年に中共軍が南下する際、故郷を離れたくないため脱党したものがいた。老党员は皆互助組などで幹部になった。

抗米援朝

- 村から抗米援朝に参加した人は多く、死んだ人も多い。新規の徴兵をされた人ではなく、元々参軍していた人。皆、自発的に参軍した訳ではない。どの村にも犠牲になった人はいた。

農業集団化～大躍進・三年困難時期

- 互助組は1954年に成立した。互助組の期間は長く、1956年に初級合作社が成立したが、1957年にはすぐに高級社になった。1958年には人民公社ができた。

- 大躍進の時には近くのダムへ行って労働した。若い労働力が動員されて、ダムを造った。
- 三年困難時期には、もともと800人いた人口が半分に減った。死んだ者もいたが、逃げた者もいた。東北へ逃げたものが多かった。
- 当時、死ぬ人が多かったため、1日に1人の死亡しか報告できないという決まりができた（郷政府への報告）。1日に2人以上死ぬと、2人目以降は報告を翌日に先送りする。

(3) BBJ

2016年8月4日 午後

インフォーマント年齢：82歳 亥年

エゴについて

- 1956年に教師になった。1960年、「三年困難時期」に災害から逃げて東北・瀋陽の鉄嶺というところへ行った。1962年に戻ってきた。
- その後、生産小隊・生産大隊で会計をした。字が読めるため。
- 1966年には富農で成分が高いために会計ができなくなった。それ以降、富農の会計はいなくなった。中農の会計はいた。
- 土地改革の時には土地が40ムー余りあり、本来は中農のはずだった。しかし祖父母が赤峰（内蒙古）で香を売る商売をしていたため、富農にされた。父親も祖父もこの村生まれ。商売は赤峰でやった。いつから商売をやっていたのかは、昔のことなので分からない。
- 父親は鎮で陶器店を開いていたが、日本軍の爆撃で死んだ。
- このようにエゴの一家は商売をしていたが、土地改革の頃は「越富裕越倒霉（豊かであればあるほど状況が悪い）」だった。
- 土地改革後、土地は1人当たり3ムーとされ、全部で20ムー余りになった。
- エゴはD村生まれだが、子どもの頃は赤峰にいた。1947～1948年頃村に戻った。理由は成分が高いため。一家は皆戻ってきた。
- 村には他にも東北で商売をする人がいた。東北が商売がやりやすく、生活も良かったため。赤峰にはD村の人も多かった。
- 土地改革後には短工をやったり、人と助け合って労働したりした。相手は特定の人ではなく誰とでもやった。助け合いは基本的に金は要らない。それは関係が良い人とやる時。そうでない場合、金を払うこともあった。
- エゴは1956年に入党した。予備期間が貧下中農は半年だが、中農は1年かかる。エゴ

も1年かかった。*ここで改めて成分について確認。土地改革の時は中農で、文化大革命の時に富農に上げられたことが分かった。

- 文化大革命後、また中農に戻った。村内に成分が変動した人は他にはいなかった。

農業集団化

- 旧来の互助行為と互助組の違いについて。互助組は1つの組の中で助け合いを行うが、旧来の互助行為は誰とでも好きにやる。そのため、両者は同じものではない。
- 村では1953年に互助組が成立した。互助組ができると、旧来の助け合いはなくなった。もともとの助け合いより互助組の方が便利のため、すぐに参加した。
- 互助組ができすぐの時には、自分の土地を差し出したくないため、すぐには参加しないものもいたが、最終的には皆参加した。
- (それは互助組ではなく初級社のことではないか、との質問に対して) 互助組と初級社の基本的な違いは大きさである。また、合作社では労働点数を付与するという違いもある。
- 村の初級社は初めは小社で21戸の規模だったが、すぐに42戸に増えた。
- 互助組に参加する前後・初級社に参加する前後で生活は特に変わらない。
- 当時、蓆を編む副業があった。これは集団の副業だが、もともとは個人の副業だった。
- 副業は労働点数がもらえる。専門に副業をやる人はおらず、農業をやりながら副業もやる。副業は一般に女性がやったり、冬季にやったりする。誰が何をやるか、上から割り振られる。
- 高級社と人民公社の違いは大きさだけであり、内容は同じである。高級社は5~6村で1つの社だが、人民公社は1つの郷で1つの社である。
- 合作社に入社後、退社した人もいたが、多くはなかった。誰だったか名前は覚えていない。
- 高級社が成立後、幾つかの村が高級社から抜けた。そのため社名がL社に代わった。
- 抜けた村々は湖に面しており、葦が多く生えていて、収入が多かった。そのため一緒に高級社にいることに不公平を感じていた。彼らは脱退後、それぞれの村で合作社を組織した。
- 彼らが脱退したため合作社の収入が減った。しかしそれらの村と特に対立などはない。
- 脱退した村は、結局人民公社で同じ社になった。同じ郷であるため。特に問題はなかった。
- (なぜ問題が無かったのか、という質問に対し) 人民公社は生産大隊が基本であるため、

問題が無かった。人民公社解体後、他村と特に交流はなくなった。

村内の廟について

- 村には昔から廟がなかった。「小廟」はあったが、廟と呼ぶ程のものではない。
- L村には廟が多かった。L村は人が多かったため。しかし既に壊してしまった。
- 鎮では廟会があったが、L村ではなかった。鎮の廟会は1950年代に秧歌や舞竜灯、物売りや劇などがあった。劇団などは北京からも呼んだ。
- 鎮の廟には舞台もあり、大きかったが、文革後になくなった。廟は九橋十八廟と呼ばれ、とても有名だったが、文革で壊した。
- 廟会、老百姓は金を出さない。一部の人が金を出したが、誰が出したかは分からない。

(4) LQH

2016年8月4日 午後

インフォーマント年齢：82歳 亥年

※LQHは2014年の調査でも聞き取りをしており、その際に不明確だったこと、再確認したいことなどを中心に聞き取りを行った^[3]。

エゴについて

- エゴは土地改革の時に富農であり、学校に通った後、遼寧省黒山県に行って水利局で会計をやった。しかし四清運動の時、成分が高いことが問題になり、村に戻ってきた。
- 土地改革前、家には大車と小車があった。どちらも人力ではなく馬で引くもの。大車は作物などを運ぶのに使った。小車は村の人の結婚などに使う。
- 小車は使用の際には金はいらない。これは誰にでも使わせる訳ではなく、村の人にしか使わせない。他の村はそれぞれ自分の村に車があるからである。
- 小車は関係の良し悪しに関係なく、村の人は誰でも使えた。食事をおごる必要もない。
- 土地改革で小車を取り上げられた後は皆、結婚式で自転車を使うようになったので小車を使うことはなくなった。
- 大車も皆ゴムタイヤの新しい車を使い出したので、誰も使わなくなった。
- エゴは村に戻った後、1976年に教員になるまでずっと農業をしていた。下肥を運んでいた。これは成分が悪いから汚い仕事をやらされたという訳ではなく、他の人とおなじ仕事。

文化大革命について

- 唐山から8人の知識青年が下放されてきた。1967～1968年頃に来た。エゴと彼らは全く交流はなかった。彼らは村の人の家に住んでおり、その人たちと彼らは交流があった。
- 知識青年たちと他の村民たちの関係は悪くなかった。村民は皆彼らに気を使っていた。
- 知識青年の中には、L村の中学校やD村の学校で教員になった者もいた。その場合、彼らは農業をする必要はない。彼らも1日8点の労働点数と6.5元の賃金をもらっていた。ちなみにエゴが教員になった後の77年時点で教員の賃金は9元だった。
- 教員も農民も労働点数は同じだった。しかし農民は早くに起きて多く労働して労働点数を多くもらうこともできたが、教員はそれができなかった。

村の助け合い

- 「解放」前、村内で結婚式をする人がいても、他の家の人が助けることはあまりなかった。家が近い人や親戚が助けるだけである。今とは違う。
- エゴの家が他人の結婚式で小車を出すのは、向うからお願いしてくるから。1日に2度貸すこともあった。御者も無料で貸し出した。

4 山東省済南市冷水溝村

(1) CKX

2016年8月6日 午前

インフォーマント年齢：75歳 午年

エゴについて

- 高級中学校卒業。12年間学校に通った。卒業後は農業をしており、外で仕事をしたことはない。22歳で結婚。L村の人と。人の紹介で結婚した。
- 土地改革の時、家には半ムー（大ムー）の土地があった。家族は祖父母とエゴの3人。貧農。土地改革で土地が分配され2.4ムーになった。祖父母が耕したが、人手は足りていた。

農業集団化

- 村の「解放」は1948年。1950年に土地改革。互助組は1953年、初級社は1954年、高級社は1956年、人民公社は1958年で、同年に大躍進運動が始まった。
- 初級社は村に10社ほどあった。合作社はまず近くに住んでいる人や関係が良い人同士

で自発的に組織し、それを後から区が批准した。

- 初級合作社に参加しなかった人もいた。理由は彼らが参加しなかったため。
- 初級社の規模は50～60戸程度。最も大きな初級社は工農聯盟社。ここは大部分がL姓（全員ではない）エゴの社は40戸余り。
- 初級社の組織は区幹部が来てやる。工作隊というほどの規模ではなく、1つの村につき1人。彼らは普段は村にはおらず、合作社を組織する時などだけ来る。
- 高級社を組織する時には別の人が来るようになった。20里くらい離れたところの人。
- 高級社は2つの自然村で組織した。同郷の4里離れた水坡村。この村との関係は良い。
- 高級社は上が組ませたが、水坡村と冷水溝の間は特に関係が悪いと言うことはなかった。それぞれ自分の村のことをやる。
- 高級社では水力発電所を作った。発電は1960年代には止めたが、1970年代まで施設は残っていた。発電所で発電した電気は外に売るのではなく、自分たちで使う。発電所では3～4人が働いた。発電所は冷水溝側が管理した。このような負担に対して、同じ社であるので、特に不公平だとは思わなかった。
- 高級社の下には生産隊が存在した。村には1つの生産小隊があった。
- 初級合作社と互助組は差不多。特に変わらない。互助組は個人で労働して助け合いをするもので、初級社は土地を公有化して一緒に労働するもの。
- 労働点数のみならず、差し出した土地の量によっても分配。高級社になると土地による分配はなくなった。
- 村の副業は靴づくりや肥料工場など、様々なものが10種類以上あった。これらは自分たちで使用するためではなく、売るために作る。これらは村の副業であり、公社の副業ではない。村で管理し、収入も村の収入となる。
- 冷水溝は土地が多く、商売も多いため、比較的裕福だった。
- 副業をすると現金ではなく労働点数をもらう。集団の副業は1993年になくなったが、個人の副業はまだある。
- 人民公社解体後も、自発的な助け合いはまだある。相手は好き勝手に選ぶ。
- エゴは1975～1979年、生産大隊の会計だった。これは村の選挙で選ばれた。主な仕事は大隊の生産を管理すること。

(2) WXM

2016年8月6日 午前

インフォーマント年齢：79歳 寅年

エゴについて

- 9年間学校に通い、初級中学校卒業。その後16年間、家で農業をした。その後抜擢されて幹部となり、最終的に村に戻ってきた。

村の土地改革

- 土地改革はエゴが12歳の時。地主は30戸くらい、富農は8戸いた。
- 成分の分類は土地の所有量・人を雇うなどの搾取量が基準。
- 地主や富農は商売をするものもいたが、農業が中心であった。
- エゴの家は8ムー（大ムー）の土地があり、6人家族で中農になった。そのため土地改革前後で変動はなかった。
- 労働力が少ないので、1945年までは人を雇っていた。村内の人を雇っていた。
- 村は貧農が多く、雇農はあまりいなかった。
- 外から冷水溝に来て住み着いた人もいた。土地改革では彼らにも土地が分配された。土地改革の時点でこのような家は5～6戸いた。
- 逃亡地主も2戸来た。彼らは長工となり土地も分配されたが、当時は逃亡地主だと分からなかった。文化大革命の時に発覚し、「処理」された。元の村ではなく冷水溝で。
- 「破落地主（没落地主）」もいた。冷水溝の人。彼らに対しては闘争を行わなかった。悪覇地主はいなかった。

農業集団化

- 高級社では労働点数によって食糧だけでなく現金も分ける。金額は小隊ごとに異なる。
- 高級社時期、生産隊の労働力を外へ派遣すること（「外派労力」）もある。その収入は生産隊のものになり、個人でも現金を受け取ることができた。

5 山東省章丘市Z村

(1) ZGW

2016年8月6日 午後

インフォーマント年齢：63歳 午年

エゴについて

- 学校には高級中学校まで通った。卒業後、25～26歳の頃、2年ほど、生産隊で民兵営長をやった。民兵営長は全ての小隊にいる。生産小隊では計工員もやった。この仕事は労働点数の計算。しかしこれは会計とは異なる。会計のために働くものである。
- 民兵の主な仕事は訓練。この訓練の指揮を人民公社の民兵営長が行う。
- 民兵の後、エゴはMというところに行って瓦作りを学び、瓦匠になった。結婚に有利だと思ったため。瓦匠は40年ほどやった。初めは1日2元の賃金だったが、4.5元になり、8元になり、10元になった。子供たちが大きくなり食うに困らなくなったので瓦匠をやめた。

村の歴史

- 村は1948年末に「解放」。1949年に土地改革。
- 地主・富農がどれだけいたかはあまり覚えていない。富農は十数戸。1人当たり10ムー余りの土地を持っていた。地主は5～6戸。本当の意味で搾取しているものはいなかった。
- エゴの祖父ZJLも地主で、外で商売をしていた。外で金を稼いで村に帰り、30～40ムーの土地を買ったが、節約しており、搾取もしていなかった。人は雇っていた。
- 村の悪覇はZBYという人1人だけ。土地も多く持っていた。
- 人民公社の頃、村には9つの生産小隊があった。

看青について

- この辺では「看青」ではなく「看坡」と言う。これは民兵の仕事ではなく、生産隊の他の人がやる。生産隊が1人選んで、労働点数を付ける。毎年違う人が見張る。また、自留地や果樹も見張る。
- 看坡に選ばれるのは、思想・自覚が高いもの、元軍人、党員や私情を挟まないもの。昼間も夜中も見張りをし、農業をする必要はない。

村の観光化について

- 2001年、済南市の観光開発などを行う会社（L社）の人たちが来て、観光地として公開されることになった。
- 入場料収入は本来、10%が村に還元されることになっていた。しかし今のところ、村人の手には全くわたっていない。
- 村内の建築物・観光地は村や村人ではなく、会社が管理している。
- 村内で土産売りをするのに会社から許可はもらわず、金銭を支払う必要もない。また、村民がやるのも、余所者がやるのも、どちらも咎められることはない。
- 土産店で売るのはM（エゴが瓦作りを学んだところ）の店が送ってくる。

(2) ZJH

2016年8月6日 午後

インフォーマント年齢：88歳 辰年

※ZJHは元幹部である。村の歴史について確認するために聞き取りを行った。

エゴについて

- 9カ月学校へ通った。私塾。Z村ではなく外で。授業料に3カ月で80斤の食糧が必要で、それが用意できなくなったのでやめた。
- 土地改革の時には土地は全くなかった。その前に売り払ってしまった。そのため貧農になったが、土地や家屋を必要としなかったため、もらわなかった。自分で金を稼がなければならぬと考え、短工をした。
- 1950～1951年には個人経営。1951～1952年には外で労働した。1953年に村に戻って土地を買った。この時土地を買ったのは土地改革より後だったので成分に影響はなかった。
- エゴは64歳になった1994年まで幹部だった。初めは生産小隊の副隊長（1956年）。その後1957年に隊長になり、1958年に連長（その後名称が変わり隊長）。1960年に大隊長になり、1969年に支部書記になった。1958年に貧農協会主任にもなっている。退職金はなかった。済南市委員会へ不満を言ったが、もらえなかった。

村の歴史

- Z村は680年の歴史がある。元々村の住民は山西省洪洞県の大槐樹から来た人たちで、まず河北省棗強県へ来た。その後Z村に来た。
- 村の土地改革は1947年。成分分けはこの頃にやった。1949～1950年頃に階級の再検査

を行った。村に地主は7～8戸，富農は10戸余りいた。

- 地主の基準は土地を10ムー余り持つこと，牛か，少なくともロバ2匹を持つこと。

農業集団化

- 1955年冬に初級社が組織。1956年春には高級社。1958年春，人民公社が組織された。
- 初級社の規模は自由で，それぞれ異なった。初級社を組織する時には，県の工作隊が村にきた。村で大会などを開いた。高級社の時，村には1つの生産大隊，6つの生産小隊。
- 合作社（高級社か初級社かは不明）に土地を差し出しても，土地による分配はなかった。

6 山東省章丘市W鎮S村

(1) ZJP, ZFJ

2016年8月7日 午前
ZJP 年齢：67歳 丑年
ZFJ 年齢：75歳 巳年

エゴについて

- ZJP, 9歳から文化大革命まで学校へ通う。初級中学校まで通った。
- ZFJ, 中等専門学校卒業。11年学校へ通い，1961年に村に戻ってきた。
- ZFJ, その後生産小隊で5年間会計をやった。1966年の文化大革命の時，大隊の水利工程で働いた。また，村文革委員会の主任，支部副書記も務めた。

村の歴史

- 村は現在，東村，西村，南村，北村に分かれているが，本来1つの村だった。人民公社が解体し，生産大隊が1984年に土地を分けた時に大隊を4つに分けた。大きかったため。今は1つ1つがそれぞれ行政村。行政村として正式に分かれたのは1984年だが，もともとは1947年の土地改革の後，村を東西南北に分けた。土地や人口は東西南北どれも同程度。

土地改革

- 土地改革の時には，工作隊として専署の人が来て大会などを開いた。
- 大会は東西南北個別で開くこともあれば，全体で開くこともあった。
- 土地は1人当たり2ムーの基準で分配された。これで食べていくには十分だった。基本

的に東西南北各村で分配するが、それぞれの間で相互に調整することもあった。

- 成分を分ける基準は土地の所有量と搾取量。村に7~8戸の地主がおり、多くて40ムーの土地を持っていた。20ムーで地主になったものもいた。この村は「人口多、地少」なので、地主は多くなかった。闘争は激しくなかった。富農も20戸程度で多くない。大部分は貧農。
- 土地改革時に不在だった人に、後から土地を分け与えることはしない。

農業集団化

- 互助組は1953~1955年に組織された。これは数人で助け合いをするもので、規模は大きいものも小さいものもあった。親戚ではなく隣近所でやった。
- 互助組は自発的に組織され、組内で格差の問題などはなかった。
- 1955年に初級社ができた。これは土地を公有にし、労働点数を付ける。
- 初級社では土地による分配と労働点数による分配があった。家族の数などは関係ない。
- 家族が多く労働力が少ない場合も、子どもや老人も土地による分配があり、何とかあった。
- 初級社は十数戸から数十戸規模。最大で30戸ほど。
- 村では初め7つの初級社があり、その後増えた。
- 1956年には高級社になった。高級社はS(村名)新華高級農業合作社という名前で、南村のZFMという人が社長だった。ZFMはこの後、選挙で生産大隊の隊長にも選ばれた。
- 隊長を選ぶ際、東西南北どこの村の人かは考えなかった。大隊委員を選ぶ時には考えたが、これも選挙で選んだ。
- 人民公社は1村全体で1社だが、その下には16の生産中隊があった。
- 中隊とは生産の単位であり、分配の権利がない。生産隊には分配の権利がある。
- (1つの郷につき1つの公社か、という質問に対して)郷は大きさがそれぞれ異なるため、郷と社は関係ない。W公社には30余りの行政村が含まれていた。
- 生産隊は30戸程度が基準だが、多いものも少ないものもあった。
- この時期、「外派労力」もあった。水利などの工事を行う場合、生産隊の労働力を外へ派遣する。その場合、派遣された人には労働点数を付ける。
- 1984年に人民公社が解体し、区が成立した。その後1年余りで鎮になった。

おわりに——考察に代えて——

本報告で見たように、今年度は14人の老農民から聞き取りを行うことができた。本年度は初めて山東省で聞き取りを行ったが、それにより、一定程度河北省の農村を相対化することができた。例えば冷水溝はもともと稲作をしていたが、多様な副業があることも分かった。そのため、河北省と比べて比較的豊かであったことが推定されるし、実際に河北省と比べ、比較的教育を受けた時間が長い人が多かった。このような特徴が、山東省に広く見られるものなのか、或いは一部のものなのかは、今後の調査でも考える必要があるだろう。また今回は観光地として公開されている章丘市Z村のような特殊な村落で聞き取りを行うことができた。このような観光開発が、現在の村落の在り方に如何なる影響を与えているのかについても、今後考えていきたい。

河北省においては、一昨年に引き続き玉田県D村で聞き取りを行うことができた。同村落で繰り返し聞き取りを行ったことで、中共地下黨員についての話や、抗米援朝時期の動員、文化大革命時期の事々について聞くことができた。玉田県での調査は引き続き行う予定であり、これらの事柄について新たな知見を得ることを目指したい。

付記：本稿は平成28年度科学研究費補助金（特別研究員奨励費）による成果の一部である。

注

- [1] 拙稿「華北農村調査の記録—2014年9月、2015年8月河北省農村」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』第2号、2016年、180～197頁参照。
- [2] 中生勝美『中国村落の権力構造と社会変化』アジア政経学会、1990年。
- [3] 注1に同じ。

（この ただし 日本学術振興会特別研究員）